本市を取り巻く社会状況

●人口減少・少子高齢化社会の進展

・合計特殊出生率の低迷
・団塊の世代の高齢化
　→地域の特徴を生かしつつ、自立的で持続的なまちづくりの必要性

●経済環境の複雑化・高度化

・生産拠点の海外移転
・産業構造・就業構造の変革
・IoT や人口知能、通信システムなどの研究開発・実用化
　→急速なグローバル化や技術革新に対応した産業構造への転換や再構築に向けた取組の必要性

●安全・安心や健康に対する意識の高まり

・災害による被害の頻発やサイバー犯罪など多様な犯罪の増加
・健康に対する意識の向上
・新型コロナウイルス感染症の影響で、屋内で集まって健康・予防活動を行うことが困難
　→行政と地域住民が一体となったまちづくりや、健康寿命を延伸させる施策の必要性

●市民活動の必要性の高まり

・地域社会の人と人との繋がりの希薄化
・地域課題の多様化・複雑化
　→行政だけの取組ではなく、さまざまな団体とこれまで以上に連携していく必要性

●新型コロナウイルス感染症の拡大と生活様式の変容

・景気の急速な悪化
・デジタル・トランスフォーメーションの加速
・東京圏から地方への分散・回帰の機運の高まり
　→地域経済を再構築しつつ、ライフスタイルや働き方の変化などに柔軟に対応する必要性

●独自財源の確保と行財政改革の推進

・税収の伸び悩み
・社会保障関連経費の増加
・老朽化施設・インフラの急増による修繕や更新にかかる費用負担の増加
　→行財政改革を通じた歳出抑制と公共施設の適正配置等の必要性

●多様性を受け入れる社会の実現

・少子高齢化の進展、女性の更なる社会進出、国際化の加速など、社会経済環境の変化
・人口減少による労働力の減少
　→多様な人材が活躍できる環境の必要性

前橋の現状は？

1965 年に 254,595 人だった本市の人口は、高度経済成長期を経ながら増加を続け、2000 年には 341,738 人となりました。

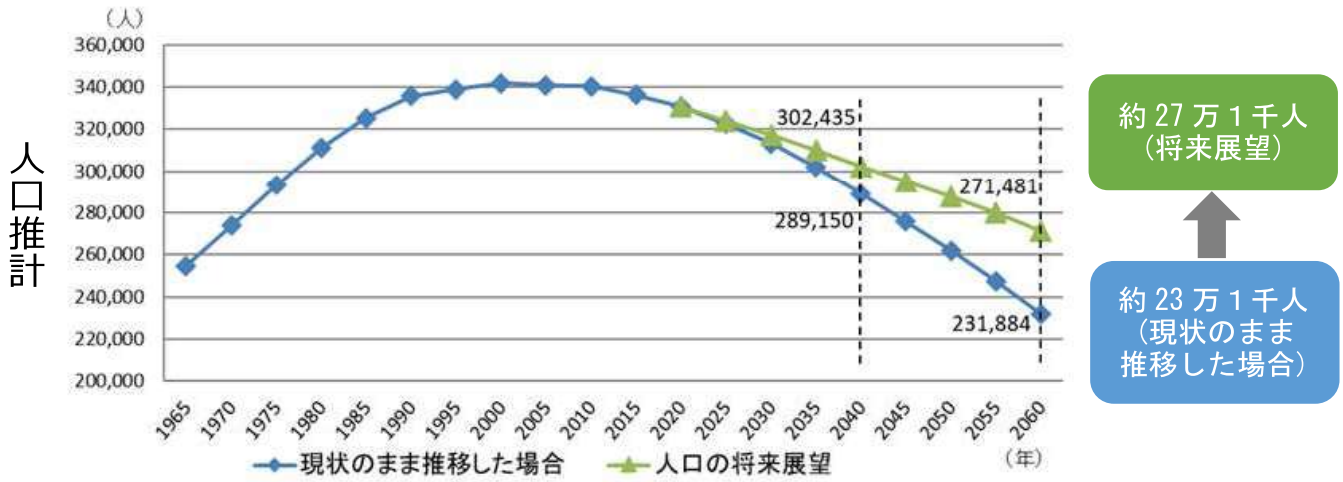
しかし、現在既に減少局面へ突入しており、2015 年には 336,154 人となっています。

将来は？

このまま減少が進んだ場合、2040 年には 28 万９千人、2060 年には 23 万１千人になると推計されています。

目標

人口減少問題への対策として策定した第２期県都まえばし創生プランでは、人口減少幅を最小限に食い止め、2040 年には 30 万２千人、2060 年には 27 万１千人とすることを目標とします。



（2015 年までは国勢調査の結果、2020 年からは社人研による推計）
※市町村合併前の旧大胡町・宮城村・粕川村（2004 年 12 月合併）、富士見村（2009 年５月合併）の数値を含んだ実績

基本構想

ビジョン〔基本理念〕

前橋の未来に向かって、これまで大切にしてきたまちの誇りや可能性を受け継ぎ、磨き育て、新たな価値を生み出しながら、将来を担う子や孫たちの世代に未来への襷として繋いでいくことを、ここに暮らすすべての人で実現するという想いを込めて、**『めぶく。～良いものが育つまち～』**を地域全体で共有していくビジョンとして掲げます。

将来都市像〔目指すまちの姿〕

『新しい価値の創造都市・前橋』を将来都市像に位置付け、「市民一人ひとりが個性と能力を生かし、個々に輝くことにより新しい前橋らしさを創造するまち」を目指すまちの姿とし、その実現に向けて行政は多様な市民の活動を支えていきます。

これからのまちづくりを進めるキーワードは「**地域経営**」です。

市民、企業・団体、行政それぞれが、「他人ごと」ではなく「自分ごと」として、地域の課題を捉え、自主的・自律的に、また連携して課題解決に取り組むことが重要であり、そのためには、それぞれの主体が共有できる将来のまちの姿を持つことが大切です。

行動指針

さまざまな人たちが連携し、課題解決や目標達成に向けて取組を進めるには、何を基準に、何を拠り所に行動していくかが大切です。

そこで、３つの姿勢を行動指針として位置付けました。

行動指針１ 認め合い、支え合う

まちが持つ力を最大限に発揮し、様々な地域課題を解決していくためには、年齢、性別、国籍、障害の有無、そして考え方などに関わらず、市民一人ひとりがお互いの個性や価値観を尊重し、**認め合い、支え合う**姿勢が大切です。

行動指針２ つながり、創造する

人と人が繋がることで、新たなアイデアが生まれることや可能性が広がることがあります。

まちをより良くしていくためには、市民一人ひとりが互いに**繋がり**、新しい発想で課題解決の手段を絶えず**創造する**姿勢が大切です。

行動指針３ 未来への責任を持つ

私たちが暮らすこのまちの景色や風土は、先人たちが築き、守り、育ててきた財産です。

社会状況が変化していく中でも、こうしたまちの魅力を将来を担う子や孫たちの世代へしっかりと繋ぐためには**未来への責任を持つ**姿勢が大切です。

まちづくりの柱

将来都市像の実現を目指して、６つの柱に基づくまちづくりを進めます。

教育・人づくり

人は、前橋の未来を形づくる根幹です。誰もが社会の中で豊かな心と健やかな身体を身に付けながら、夢に向かって前向きに成長できるまちにします。

⇒人をはぐくむまちづくり

産業振興

まちのにぎわいを生み出し、人々のいきいきとした暮らしを実現する源泉は他でもない地域産業です。

産業を地域に根付かせ、その活力を原動力にして前進するまちにします。

⇒活気あふれるまちづくり

結婚・出産・子育て

人生の希望を実現させることは、誰にでも認められる権利です。

かけがえのない大切なパートナーや子どもと、喜びや楽しさを分かち合いたい人たちの希望を叶えるまちにします。

⇒希望をかなえるまちづくり

シティプロモーション

人口減少社会にあっても、都市として発展を遂げていくためには、都市の魅力を高めることが大切です。

地域のブランド力を強化し、人々の関心や愛着を高め、住んでみたい、住み続けたいまちにします。

⇒魅力あふれるまちづくり

健康・福祉

心身共に健康であること、そして、手を取り合い繋がりを持つことは、幸せに暮らしていくための鍵です。

人々が支え合い、誰もが自分らしく健康に暮らせる共生のまちにします。

⇒生涯活躍のまちづくり

都市基盤

人々に安心と安全を提供するためには、快適な都市環境を柔軟に、無理なく維持していく必要があります。

都市インフラの計画的な整備と環境への配慮により、持続的に発展していくまちにします。

⇒持続可能なまちづくり